

辞書指導 WHAT & HOW

—中学校英語教師から高等学校英語教師へのお願い—

本多 敏幸

1. はじめに

中学校では辞書指導をあまり行いません。行う必要性を感じないからです。中学校で使われている文部省検定教科書をご覧になったことがありますか。どの教科書にも巻末に辞書(語彙リスト)が載せてあり、しかも、適切な訳語のみが紹介されているのです。生徒は語句の意味がわからなければ、まず、教科書の巻末を開きます。ほとんどの場合、巻末を見れば用は足ります。辞書を引く必要はないのです。

生徒の多くは辞書に対する興味をもって入学してきます。小学校卒業時に記念品として辞書を贈呈されることが多く、児童はワクワクしながらその辞書を開き、中学校で教わる英語に期待しているのに違いありません。入学してから最初の授業では、真新しい辞書を教科書の横に置いている生徒もいます。しかし、その辞書は中学3年間で1回も開かれなくてもまればよいのです。

本稿では、高等学校の先生がたに中学校の現状を知っていただき、厚かましいとは思いますが、辞書指導を高等学校で行っていただけようをお願いしたいと思います。また、数研出版から1998年10月に出版された『Inside the Dictionary 英語辞書活用ノート』(以下『辞書活用ノート』)の執筆者のひとりとして、主に英和辞典の適切な指導方法について述べさせていただきたいと思います。

2. 中学校における辞書の使われ方と辞書指導

私自身、数年前まで、辞書指導については「早く単語を引けるようになればいい」程度にしか考えていませんでした。ですので、私の受け持った中学生にまともな辞書指導はしていませんでした。ところが、1996年に発足したELEC 同友会実践研究部会で、「中・高連携を考えた辞書指導」の研究を始めてから辞書指導の大切さを感じるようになり数時間程

度ですが、辞書指導に時間を割くようになりました。

同部会で行った辞書指導についての簡単なアンケート調査の結果では、「計画的に辞書指導を行っている」と回答した人は中学校・高等学校ともにほとんどいませんでした。また、「辞書指導をどの程度行うか」との質問に、高等学校では、ほとんどの人が「教材を用いて練習させる」と回答したのに対し中学校では、「辞書の紹介程度」「引き方の説明」「教材を用いて練習させる」などの回答に分かれました。

辞書の活用方法についての調査結果では、中学校と高等学校では顕著な違いが見られました。高等学校では、生徒が辞書を引く主な目的は、「予習で教科書の語(句)の意味を調べるため」ですが、中学校では、「スピーチやスキットなどの表現活動の原稿を書くため」となっています。おもしろいことに、中学校で「予習で…」を、高等学校で「スピーチや…」を選んだ人はほとんどいませんでした。この結果の理由として次のことが推察できます。

ア 中学校では、スピーチやスキットなどの言語活動が取り入れられ、自分の表現したい語(句)を主に和英辞典を使って調べる機会が多い。

イ 中学校では、教科書の巻末に辞書(語彙リスト)があるので、教科書に書かれている語(句)を英和辞典を使って調べる必要がない。

ウ 中学校では、指導の重点が、「読むこと」より「聞くこと」「話すこと」に移ってきており、この領域で辞書を使用することが多い。

エ 高等学校では、予習として、語(句)の意味を調べさせることが多い。

オ 高等学校では、指導の重点が、「読むこと」となっており、この領域で辞書を使用することが多い。

中学校英語教師の大半が辞書指導は大切だと考えています。しかし、辞書を使わせる機会が少ないことや時間のゆとりがないことから、十分な辞書指導

を行えてはいません。また、ほとんどの中学生がジュニア用(初級, 中学生用)の辞書しかもっていないので, 高等学校で使用する学習英和辞典を用いた辞書指導を行えないのが現状です。

3. 辞書指導の目的と指導項目

ELEC 同友会実践研究部会では, 辞書指導の目的を次のようにまとめました。

(1) 辞書の種類, 機能, 意義について教える。

辞書を引いてどんなことが調べられるのか, 学習できるのか, またその有用性は何かを教える。

(2) 辞書を引くことのおもしろさを教える。

辞書を引くことで, 単にその機能を理解するだけでなく, 新たな発見をしたり, 異文化について学習できることに気づかせ, 辞書の世界に興味をもたせる。

(3) 辞書を活用できる自立した学習者を育てる。

「自分で学ぶ力」を育てるのが辞書指導の目的のひとつであり, 生涯学習との関連でも大切な要素である。

要するに, 「辞書にはどんな情報が載っているのか, 必要な情報をどのようにすれば得ることができるのかを学びながら, 辞書に興味をもち, 生涯にわたり辞書を活用することができる」ようにさせることが, 中学校・高等学校における辞書指導の主な目的であると思います。

辞書にはさまざまな情報が載っており, 辞書独自の記号も使われているので, 数時間程度の指導では十分に辞書を使いこなすところまで到達させられません。計画的かつ継続的な指導が必要になります。部会で列挙された英和辞典の指導項目だけでも次の37項目ありました。

- 辞書の種類とその目的(英和・和英・英英)
- 単語の配列「つめ見出し」「はしら」の活用
- 品詞の表示(記号)
- 情報の配列 ● 動詞の語形変化
- 形容詞や副詞の語形変化
- 名詞の単数形と複数形
- 音節 ● アクセント
- イントネーション ● 適切な訳語の選択
- 連語, 成句, イディオム
- 絵や図の活用 ● 短縮形(縮約形)
- 文脈に応じた語義

- 発音表記と実際の発音との対応
- 多義語 ● 用例の活用
- 辞書特有の記述(be, one's など)
- 文化的情報
- 品詞が複数ある語について辞書中の語意の選択
- 加算名詞と不加算名詞
- 会話表現 ● レジスター
- 性, 年齢, 人種に関連した差異
- つづり(米国式・英国式)
- 接頭辞や接尾辞
- 地域や時代による差異
- 自動詞と他動詞 ● 状態動詞と動作動詞
- 日英比較 ● 文型, 構文, 語法
- コロケーション ● 派生語
- 類語
- 単語のいろいろな探し方

これらすべての項目について, 実際に教材を用いて練習させるとすれば, かなりの時間が割かれることとなります。辞書に関する授業が週1時間あれば可能ですが, 現実では無理でしょう。しかし, 辞書の有用性を知っている私たち英語教師からすれば, これらの項目すべてに触れたい気もします。

4. 高等学校における辞書指導のお願い

中学校では, 学習英和辞典を使用させないかぎり, 「単語の配列」「見出しの活用」「語形変化」「適切な訳語の選択」「多義語」「発音・アクセント」程度の指導しか行えないことがおわかりになったと思います。ですから, 生徒に学習英和辞典を購入させたら, すぐに辞書指導を行っていただきたいのです。高等学校の教師により, 辞書を予習に使わせたり, 授業中に使わせたり, 使わせ方はいろいろだと思いますが, これからの指導を効果的にするためにも, また, 自学自習ができるようにさせるためにも, ある程度の時間を辞書指導に割いていただきたいのです。何の指導もしないで, 「教科書のこのページを辞書を使って予習してきなさい」とは言っていたきたくないのです。

中学校の教師により, 辞書の使わせ方や辞書指導の質量は違っているのに, 生徒の現状を踏まえた指導が必要です。多くの場合, ジュニア用辞書, 学習英和辞典, 英和中辞典の違いから説明しなくてはならないでしょう。もしかしたら, 英和辞典, 和英辞

典、英英辞典の違いを説明しなくてはならないかもしれません。辞書の記述で基本的な記号を教える際も、「これは加算名詞を示すのだよ」と説明しても、ほとんどの生徒が『加算名詞』とは何だかわからないでしょう。品詞名とその性格でさえ、わからない生徒が多くなってきていると思います。多くの中学校英語教師は、なるべく文法用語を使わないで指導することを心がけているからです。そこで、生徒が中学校でどんな指導を受けてきたかを知ることが、辞書指導に限らず、指導を行ううえでとても大切なことです。

入学後早々の辞書指導は、辞書の有用性とおもしろさに気づかせることが大きな目的だと思います。3月まで中学生であったことを考えると、学習英和辞典を手を持たせて、「単語の配列」「見出しの活用」「語形変化」「適切な訳語の選択」「発音・アクセント」「用例を見る」などの指導だけでも十分であると感じます。他の項目については、授業の内容に伴って、徐々に指導していけばよいでしょう。入学当初から、「高校では辞書を引くことが英語の学習である」と生徒が思い込むような、何十回も辞書を引かなければならないような課題を毎回出すことは、生徒を辞書嫌いにさせることになるので避けていただきたいのです。

5. 私の中学校での取り組み

2年前の3年生から、学習英和辞典を購入させ、辞書指導を行うようにしました。理由は2つあります。まず、ELEC 同友会実践研究部会で、「中・高連携を考えた辞書指導」の研究を行ってから、どのような指導を中学校で行ったら、中・高連携となるのか私なりに考えた結果、中学校3年生から学習英和辞典に慣れさせておくのがよいと判断したからです。次に、義務教育終了後、高等学校に進学しない生徒もおり、将来、仕事や家庭で辞書を使用できるようにさせたいと考え、辞書指導を中学校のうちにやるべきであると感じたからです。

3年生の5月ごろにジュニア用辞書、学習英和辞典、英和中辞典の違いを説明し、いくつかの学習英和辞典を推薦します。そして、6月ごろから『辞書活用ノート』を用いて指導していきます。

ここで、『辞書活用ノート』の内容と項目について説明します。1項目における構成は、「いっしょに

Try!」「ひとりでTry!」「ちょっとAdvice」「練習問題」からなっています。「いっしょにTry!」では、例題を細かなステップ(4つ前後の「タスク」を与えている)を踏んで学習できるようにくふうされています。教室内で教師が指導することを前提として作られています。生徒が独学することも可能になっています。「ひとりでTry!」では、「いっしょにTry!」と同様のステップを踏みながら、各自で引き方を確認していきます。「ちょっとAdvice」では、辞書を引くうえでのコツやちょっとした情報が書かれています。たとえば、「イディオムの意味を辞書で引くときは、その語句中の一番長い語(oneself など変化するのは除く)を引くと載っている場合が多い」「その見出し語で出ていない場合は、関連する別の単語を引いてみましょう。handle で出ていなければ car を引くなどのくふうも大切です」「動詞や名詞とともに用いる前置詞で何をを使うかわからない場合は、その動詞や名詞を辞書で調べると、イディオム欄や語義が区分された欄またその用例のところ載っている場合があります」などの記述があります。さらに、「練習問題」を行うことで、その項目について慣れることができるように構成されています。

内容はIntroductionと3つのstageに分かれており、基本的なことから辞書に書かれているさまざまな情報を得るための練習ができるようになっています。内容は次のとおりです。

< Introduction >

00 辞書ってどうなっているの？

< Stage 1 >

01 辞書に慣れよう！

02 名詞・動詞を調べてみよう！1

03 形容詞・副詞を調べてみよう！

04 イディオムを調べてみよう！

05 単語の意味を調べてみよう！

06 音節・アクセントを調べてみよう！

07 発音記号を調べてみよう！

< Stage 2 >

08 ハンドルは英語でも handle って言うの？

09 名詞・動詞を調べてみよう！2

10 類義語・語のつながりを調べてみよう！

11 派生語、接頭辞・接尾辞を調べてみよう！

12 和英辞典を使ってみよう！

13 文法事項を調べてみよう！

< Stage 3 >

14 前置詞を調べてみよう！

15 ことわざを調べてみよう！

☆ 辞書の記号の話

16 米と英の違いは？

17 この場面でこの表現は使っているの？

18 こんな引きかた、知っている？

これらのうち、< Introduction >および< Stage 1 >の項目については、中学校で十分指導できるものです。この中の項目だけでも、中学校で教えておけば、辞書を引く際の基本的な知識はマスターできます。< Stage 2 >以降の項目については難しい用語も使われているので、興味があれば学習するよう指示を出しています。

『辞書活用ノート』の最初の項目は「辞書の種類」「見出し」についてです。基本的なことですが、生徒にとっては「Sのつめ見出しが一番大きい」など、新しい発見があるようです。「辞書に慣れよう！」は、「単語の配列」と見出し語を速く見つけるための練習をゲーム感覚で学習できるようになっています。「名詞・動詞を調べてみよう！1」では、名詞の複数形、動詞の変化形について主に学習します。-ingの-の意味を初めて知る生徒がほとんどで、「辞書は情報をたくさん載せるために、できるだけ省略して記述するくふうをしているんだよ」と言うと、「なるほど」と納得します。

3年生が卒業する際、それまで授業で行った主な指導方法や活動について評価させています。平成11年3月に卒業した生徒を対象に、42項目に対し、「おもしろ度」「役に立った度」の2つの観点で、評定と同じように、1から5の数字をつけさせた結果、「おもしろくて役に立った度」が次のようになりました。ポイントは「おもしろ度」と「役に立った度」の合計で、10に近いほど評価が高いことを示しています。

順位	項目	ポイント
1位	なるべく英語で授業を行ったこと	8.190
2位	人形劇作成	7.719
3位	LLを使ったインタビュー活動	7.593

4位	ダイアログゲーム(基本文を定着させるためのゲーム)	7.559
5位	One Minute Chat(会話を継続させるための指導)	7.424
6位	創作スキット鑑賞	7.423
7位	ニューリスニング(リスニング教材)	7.403
8位	インタビューゲーム	7.390
9位	LLによる音読練習	7.323
9位	教科書準拠のレーザーディスク	7.323
11位	辞書指導	7.322
12位	On Course 1を使った授業	7.272
13位	Picture Dictionaryの学習	7.271
14位	音素聞き取り訓練	7.203
15位	フォニックスの指導	7.200
16位	Small Talk & Report(2分間会話をし、相手のことについて報告する)	7.186
17位	スキット作成	7.169
18位	スピーチを聞く	7.102
19位	ビンゴゲーム	6.932
20位	ディスカッション	6.807

辞書指導に対する生徒の評価は高く、42項目中11位となっています。

6. おわりに

中学校における辞書指導は、辞書の引き方に関する知識を与えることはある程度できると思いますが、実際に読み物教材を用いて、辞書に十分慣れさせることはなかなかできません。理由は先に述べたとおりです。

高等学校では、中学校よりさらに指導すべき内容が多いことは承知のうえで、ぜひ、辞書指導を行っていただければ幸いです。

<参考文献>

ELEC 同友会実践研究部会(1997)『中・高連携を考えた辞書指導のためのワークシート集』

(江東区立深川第八中学校教諭)